



公益社団法人

沖縄県理学療法士協会

okinawa physical therapy association

グローバル社会における理学療法士の 活動に資する事例紹介事業

社会職能局 国際支援部

活動概要

- 目的** : 各会員が英会話力を身につける事で、より有益な理学療法を外国の方にも提供する事が出来る。
- 意義** : 本件は定款第4条第2項理学療法士の職業倫理の高揚を図り、学術・技術の向上に関する事業に基づき、国際支援に関する事業として実施する。
- 内容** : 上記事業目的のもとに、令和4年7月に医療英会話講習会を開催。令和4年6月に事前講習会を開催し、講習会の中でアンケートを聴取。その内容を参考に本講習会を開催。

活動開始の経緯

活動背景 : 沖縄県では米軍基地があり、観光業が盛んである事、技能実習生を受け入れている事など、各医療・介護施設で理学療法士が外国人対応する機会が多い。

課題 : 上記背景があり、米軍基地内の病院との交流・勉強会の開催等を行っていたが、部員が少なく（部長1名、副部長2名、部員1～2名）、JICA事業も終了し、事業展開が出来ていない（定期的な会議開催も困難）状況。

現状把握と部員公募 :

アンケート調査を実施して国際支援部に求める事、部員としての活動希望者を募り、現在の8名体制で運用。

メンバー構成

部長：小林 遼（JICA草の根事業参加）

副部長：小山 和（*Maryland*大学卒業、現在*Southern New Hampshire* 大学院在学中）・太田 祥平

事務局：水川 郁枝

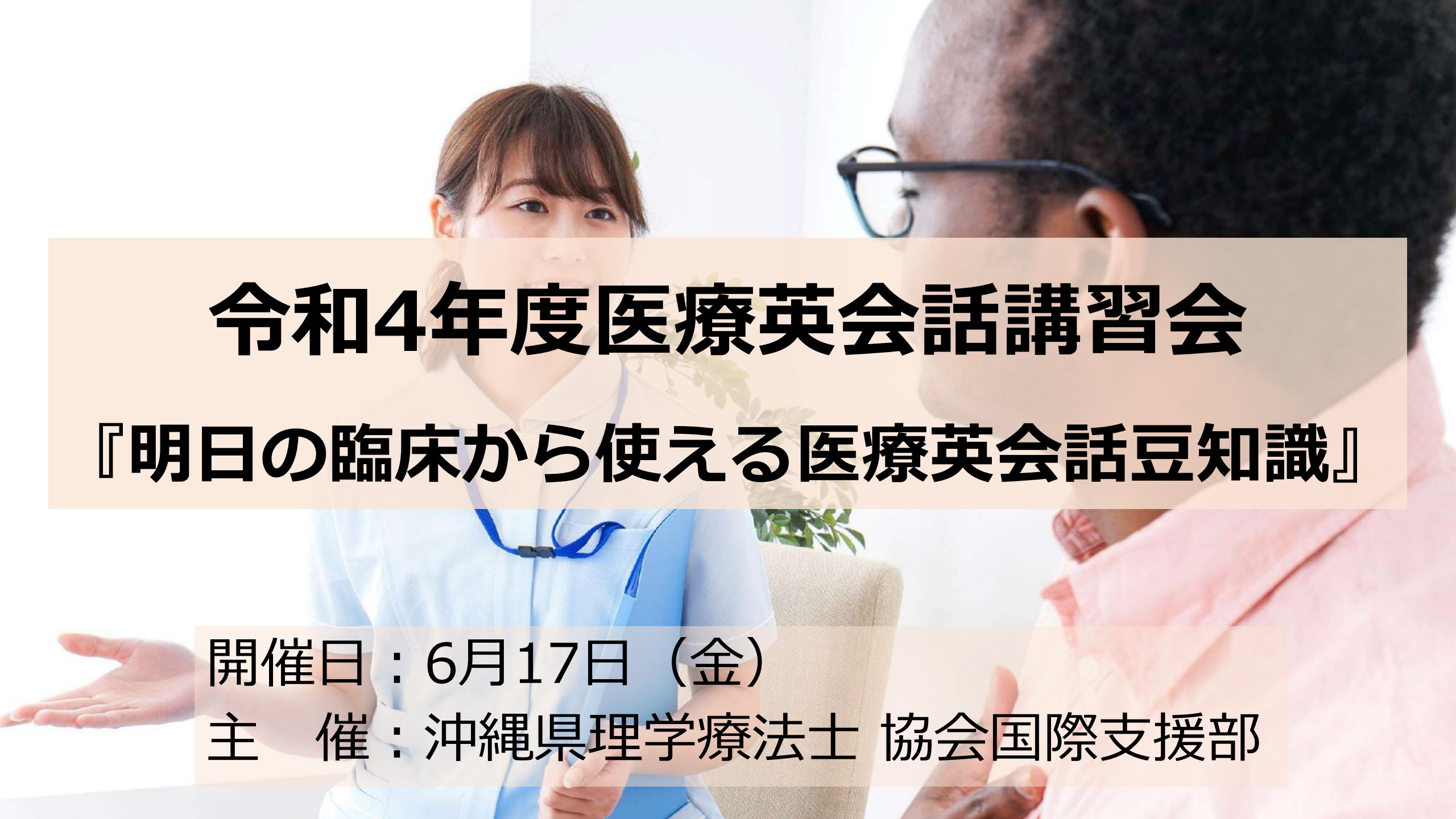
部 員：兼城 有平・山下 恵以

當間 智史(理事)・金城 良和(局長)

小林部長と小山副部長は国際留学・国際活動の経歴あり

活動開始時に必要と感じた情報

- ☐ 県士会員の内、**国際活動**に興味があるor**国際経験**のある会員に関する情報
- ☐ JPTA会員の内、**国際活動**に従事している、海外でPTとして働いている会員に関する情報（コンタクトの可否等）
- ☐ 他県士会に**国際的活動**の情報

A woman in a blue medical uniform and a man in a pink shirt are shown in a conversation. The woman is on the left, looking towards the man on the right. The man is wearing glasses and has his back partially to the camera. They appear to be in a clinical or office setting.

令和4年度医療英会話講習会

『明日の臨床から使える医療英会話豆知識』

開催日：6月17日（金）

主 催：沖縄県理学療法士 協会国際支援部

講師紹介

小山和氏

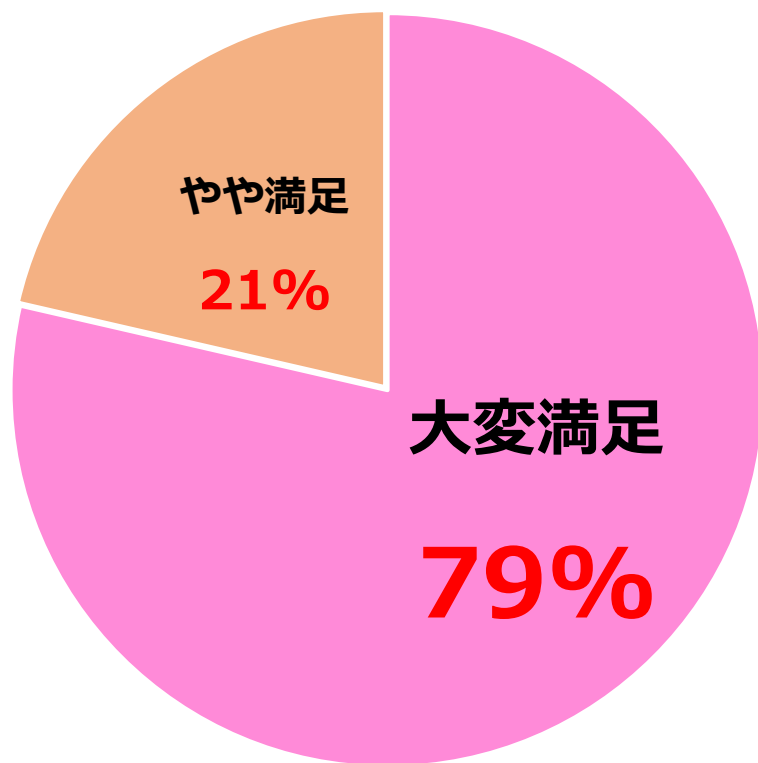
- 1989年：北海道大学医療技術短期大学部
（現、北海道大学医学部保健学科）理学療法学科卒業
その後、民間病院（札幌・東京）、独立行政法人独立病院
機構（埼玉病院・東京医療センター・東京病院）と転職、
縁あって沖縄に転居、
- 2015年：琉球大学病院に就職（在職中）
- 2016年：公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団を
通じて、University of Maryland、Bridge Program入学。
- 2017年：Bridge Program 卒業（GPA 4.0）
- 2018年：Regular Course に編入。
- 2021年：University of Maryland Global Campus卒業
“Bachelor of Science in Psychology”
（The Honor of Summa Cum Laude： GPA 4.0）
- 2022年：Southern New Hampshire University
Master of Science in Psychology online graduate course
入学・在学中



研修会風景



アンケート結果：20名中14名回答



高い満足度と感想を得ることができた！

研修会詳細

対 象 : 沖縄県理学療法士会員・県内理学療法士養成校在学生

開 催 日 時 : 令和4年6月17日（金）19時～20時30分（90分）

開 催 方 法 : オンライン配信（Zoom）

内 容 : 日本と海外の医療制度や文化の違いを踏まえ、実際に初回介入時の対応を使いやすい英文で紹介。さらに留学方法や奨学金制度等の紹介。疼痛評価を例に、表現する単語の種類で程度や質を表現する幅が増え、理学療法を展開する上でも疼痛評価の分析に重要な内容でした。

参 加 者 : 20名（内学生2名）, 20～50代まで幅広い世代、様々な分野で活躍している方々が参加

運営詳細

広 報 : 講習会開催1ヶ月前にFAX通信、協会HP、
SNS（Facebook・LINE等）活用し案内。

受 講 費 : 沖縄県理学療法士会員・学生無料、非会員：5,000円

予 算 : 39,000円
（内訳：講師謝金30,000円、日当8,000円、会議費1,000円）

事前打ち合わせ会議 : 講師部員の為定例会議の際に実施。
事業部長とは別に1ヶ月前に会議。

アンケート方法 : Googleフォームで研修会当日QRコード、翌日
メールで回答案内。

A young woman with brown hair and bangs, wearing a light blue medical uniform with a stethoscope, is looking towards a man. The man, who is Black and wearing glasses and a pink shirt, is gesturing with his hands while speaking. They appear to be in a clinical or educational setting.

令和4年度医療英会話講習会

『外国人患者のための医療英会話』

開催日：7月29日（金）

主 催：沖縄県理学療法士 協会国際支援部

講師紹介

宮城 嗣高氏

- ・ 中学校英語教師3年
- ・ 1984年 米国加州ロマリンダ大学理学療法学科卒業
- ・ サンバーナーディノ郡立病院(現アローヘッドリージョナルメディカルセンター) 理学療法士4年
- ・ アドベンチストメディカルセンター リハビリテーション科課長 26年
- ・ 某理学療法士養成校医学英語非常勤講師20年
- ・ 琉球リハビリテーション学院理学療法学科 教員 5年
- ・ 2000年より琉球リハビリテーション学院 那覇校学院長



研修会風景



研修会詳細

対 象 : 沖縄県理学療法士会員・県内理学療法士養成校在学学生

開 催 日 時 : 令和4年7月29日（金）19時～21時（120分）

開 催 方 法 : オンライン配信（Zoom）

内 容 : 6月に開催された事前講習会での実際の対応方法における復習から始まり、発音のポイントのレクチャーや、実際にSOAPでの記録にどのような内容を示すかをクイズ形式で実施。さらに病院用語や医療関連英語について例文を用いて紹介。

参 加 者 : 20名（内学生2名）、20～50代まで幅広い世代、様々な分野で活躍している方々が参加

運営詳細

広 報 : 講習会開催1ヶ月前にFAX通信、協会HP、
SNS（Facebook・LINE等）活用し案内。

受 講 費 : 沖縄県理学療法士会員・学生無料、非会員：5,000円
他職種1,000円

予 算 : 43,000円
（内訳：講師謝金35,000円、日当8,000円）

事 前 打 ち 合 わ せ 会 議 : 1週間前の定例会議へ講師参加実施。
部長とは別に前前に事前会議。

ア ン ケ ー ト 方 法 : Googleフォームで研修会当日QRコード、翌日
メールで回答案内。

事業運用スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
稟議書・事業計画書提出							
事前講習会参加案内							
医療英会話事前講習会							
講習会終了後アンケート							
アンケート/調査報告							
講習会参加案内							
医療英会話講習会							
事業報告書・HP掲載文							

県士会員のメリット・デメリット

【 Googleアンケート質問項目】

- ①理学療法士経験年数
- ②国際的な活動経験の有無
- ③本活動に参加することのメリット
- ④本活動に参加することのデメリット

国際支援部員に対してアンケート実施

メリット

- 国際的に活動したい会員のサポート
- 外国人への診療におけるホスピタリティの向上
- 英沖縄県全体の患者サービスの向上につながる。
- 国際活動の情報共有が行える。
- 海外支援に興味のある方や、JICAで支援活動していた方がいて自分の見聞が広がる。
- 自身の自己研鑽。スキルアップ等々。

デメリット

- プライベートの時間の減少（研修会や定例会議への参加、事業運営作業等。育児との両立しての参加が負担。）
- オンラインでのコミュニケーションは難しいなと感じています。

課題と対策

- **課題 1** : 効果判定が満足度と参加人数のみ
対策 : 参加者の受講後活動変化をアウトカムに取り入れアンケート
- **課題 2** : アンケートよりこのような機会を増やして欲しいと要望あり。
対策 : 医療英会話講習会の頻度を2回→3回へ増やす。
- **課題 3** : 講習会参加者数定員より少なく、他職種も参加無し。
対策 : 今年度研修会のトレーラー動画をHP掲載、興味を持って貰う。
- **課題 4** : 事業運営が部長、副部长へ依存。部員が少ない。
対策 : マニュアル作成し業務委譲、部員募集強化。

今後の展望

1. 会員の英会話コミュニケーション能力向上

受講した方々のステップアップの場としてJPTA事業模倣し、講師を外国人に依頼し、交流の機会を企画。病院受診歴のある外国人にアンケート調査する事で、生の声を聴取し、対策可能であれば対応。

2. JICA連携強化し事業受託

JICAフェスティバルでの出展が出来ていない現状の為、JICAとの連携も強化し、事業受託を受け、公益性を更に高めたい。

3. 職域拡大・会員のキャリア開発に貢献

青年海外協力隊経験者との交流会企画、留学情報提供。

まとめ

- **これまでの課題**：これまでJICA事業を中心に活動していたが終了を契機に活動収束、部員も少なくコロナ禍となり、運用継続困難な状況へ。
- **対策**：アンケート調査より部員公募し、国際経験のある部員や活動意欲のある部員も入り、現在8名体制での運用。
- **事業実績結果**：医療英会話講習会研修事業2回開催の受講者評価も高く、次年度発展的に活動継続。
- **課題と今後の展望**：今回の講習会の課題と対策を実践し、持続可能な事業運営を目指す。会員の英会話コミュニケーション能力向上、JICA連携強化し事業受託、職域拡大・会員のキャリア開発に貢献出来るよう事業展開していきたい。